

# 令和4年度 家庭科経営について

## 1 本校家庭科のねらい

- 実践的・体験的な活動を通して、家庭生活を大切にする心情を育むことができるようにする。
- よりよい生活の実現に向けて、自らの家庭生活を見つめ、その課題を解決する力を高めることができるようにする。
- かかわり合いのある学びを通して、日常生活に必要な基礎的な知識及び技能を高めることができるようにする。

## 2 目指す子ども像

小学校学習指導要領解説(平成29年告示)家庭科編には、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とある。「生活の営みに係る見方・考え方」とは、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造・持続可能な社会の構築」等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫することと示されている。

今後、少子高齢化やグローバル化、技術の進展は、私たちの暮らしを大きく変化させていくと予想されている。そのような変化に適応していくために必要なことは、新たな変化を受け入れ、取り入れていくことである。このことにより、多様な家庭生活の在り方を見いだしていくことができるとともに、生活様式の変化によって生じる新たな問題をよりよく解決していくことができるからである。

そこで、本校家庭科部では、「よりよい家庭生活を追い求める子ども」を育むことを目指す。家庭科が担う役割は、自分が生きる時代の特質や家族の背景を見据えながら、主体的に家庭の幸せを模索できる子どもを育成することである。家庭の幸せを目的として、継承すべき生活文化は何かを見定め、家庭の実態に応じて新たな生活文化を創造していくことにより、変化に適応していくことができると考える。

以上のことから、本校家庭科部が目指す子ども像を次のように設定する。

よりよい家庭生活を追い求める子どもの育成

## 3 学習過程

単元全体を通した基本的な学習過程

| 課題設定                                                                                                                                   | 知識・技能の定着                                                                                             | 実践活動の評価・改善                                                                      | 家庭実践                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 家庭生活を見つめ直し、既にできていること、新たに身に付ける必要があるものが何かを明らかにするために、以下の二つについて知る。<br>①できていること<br>②困っていること<br>これを基に学習課題を設定したり、学習計画を立てたりすることで、単元の学習の見通しをもつ。 | 学習課題の解決に向けて、必要な知識及び技能の習得を図り、それを基に、よりよく思考・判断・表現していくために、以下の二つの場で実践的・体験的な活動を行う。<br>①比較実験<br>②生活場面での試しの方 | これまでの実践の結果について、以下の二つを振り返るとともに、家庭実践に向けて改善策を検討する。<br>①できるようになった自分<br>②わかるようになった自分 | 学習したことを生かした家庭実践を行う。 |

## 4 方策

「よりよい家庭生活を追い求める子ども」を育てるには、「できた自分」を実感することが必要だと考える。新たな技を身に付けたり、科学的な視点で理解を深めたりして、課題を解決できた喜びを抱くことで、家庭生活をよりよくするために、主体的に知を活用していくことができるからである。

「できた自分」を実感するためには、以下の三つの手立てをとる。

### (1) 現在の自分の姿を捉えるための手立て

「現在の自分の姿を捉える」とは、学習課題に対して、今できていることや困っていることなどを明確にすることである。そこで、単元の学習の導入時に、自分を知る一時間を設定し、現在の自分の姿を捉えるために、①具体的な生活場面を提示したり、②比較資料（写真1）を提示したりする。

例えば、②について、「ゆで野菜サラダを作る」学習の中で、A「色の偏り」、B「整っていない切り方」、C「切り方も色どりもよい」ゆで野菜サラダ3点を例示し、どれがよいかを問う。三つの例を比較することで、調理で大切な色どりや切り方について考えながら調理計画を立てることができるようにする。このように、現在の自分を捉えることで、これから何を学び、何を獲得していけばよいのか、単元の学習の見通しをもつことができるようにする。

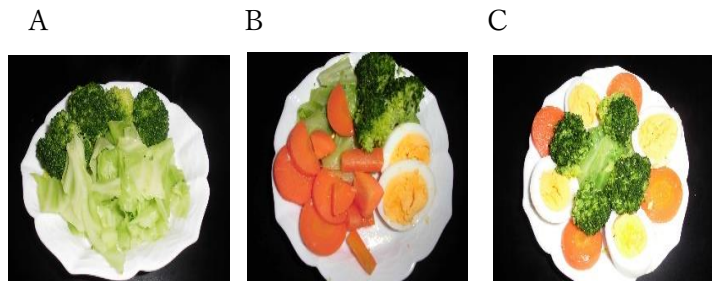


写真1「比較資料」

### (2) 自分でできることを試すための手立て

「自分でできることを試す」とは、試行錯誤を繰り返す中で、失敗体験や成功体験を通して、知識や技能を身に付け、思考・判断・表現することで、よりよい方法を見いだしていくことである。そのために、①比較実験の場や、②生活場面での試しの場（写真2）を設定し、実際に試すことで、実生活をイメージしながら学びを進めていくことができる。

例えば、②について、「生活を支えるお金と物」の学習の中で、架空の店を教室につくり、試しに買い物をしてみるよう促すことで、商品を選ぶ観点に気付き、目的や環境に配慮した購入方法を理解することができるようにする。そうすることで、科学的な理解を深め、確かな知識や技能の習得を基に、よりよい方法を見いだすことができると思う。



写真2「試しの場」

### (3) できた自分を見つめ直すための手立て

「できた自分を見つめ直す」とは、できるようになったことやわかるようになったことを蓄積することで、主体的に家庭実践につなげることである。本時や本単元を通して新たに獲得した知識や技能、本時で気付いたことや考えたこと、家庭実践に生かしたいことを振り返り、「知恵袋」（写真3）に記す。

例えば、「ミシンを使って布製品を作る」学習では、知恵袋に記したミシンで真っすぐ縫うポイントを生かし、家庭で小物入れを作成することができた。こうすることで、自分自身の成長にも、気付くことができるようにする。

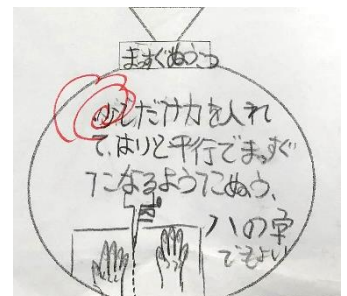


写真3「知恵袋」